

家 庭

1 学習指導及び学習評価の改善・充実

(1) 生徒の主体的な学びを実現する学習指導の工夫

各学校においては、現行の学習指導要領のもとで、「主体的・対話的で深い学び」の理念に基づいた授業が行われているが、「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」（諮問）で、学ぶ意義を十分に見いだせず、主体的に学びに向かうことができている子どもが多くなっていることなどが課題として指摘されている。

顕在化している課題

主体的に学びに向かうことができている子どもの増加

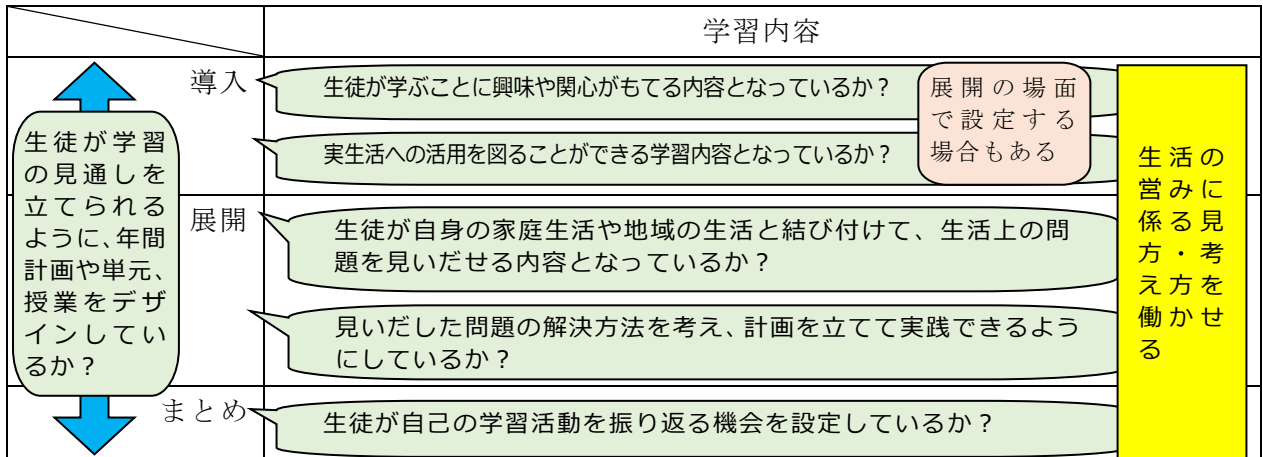
習得した知識を現実の事象と関連付けて理解できる生徒が少ない

自律的に学ぶ自信がある生徒が少ない

（初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（令和6年12月25日中央教育審議会諮問）【概要】より作成）

共通教科「家庭」は、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養うことなどを目標としており、主体的な学びの視点を「現在を起点に生涯を見通して、家族・家庭や地域、社会の課題を発見し、その解決に取り組むとともに、学習の過程を振り返って、次の学習に主体的に取り組む態度を育む学びの視点」として示している。

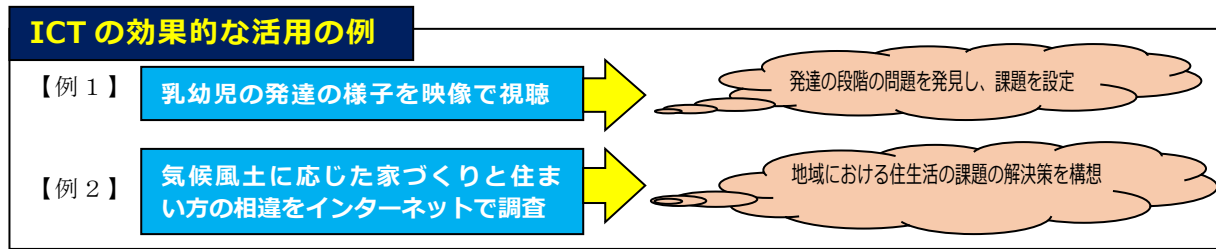
指導計画の作成に当たっては、単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、次のような視点で、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図ることが大切である。



共通教科「家庭」においては、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向け、教師の実践を評価・改善するなど、教師の実践における課題を解決する過程を重視しながら生徒の学習の充実を図ることが求められている。

また、生徒が興味・関心をもつ学習課題の工夫の一つに、ICTの効果的な活用が挙げられ、共通教科「家庭」においても、一連の学習過程の中で効果的にICTを活用することが求められている。例えば、生活の中から問題を見いだして、課題を設定する場面においては、体験的な学習が困難な場合でも動画の視聴やインターネットを活用すること

により、生徒が学習対象について、具体的にイメージをもつことができ、どのような課題があるかを認識させることができる。



他にも、家庭や地域の生活課題を見だし、その解決策を検討するなどの学習活動においては、検討した解決策の改善点等を生成 AI に求めたり、生成 AI を活用して議論で出た意見をまとめたりすることで、論点が分かりやすくなるなどの利点がある。

育成すべき資質・能力を生徒に身に付けさせるためには、ICT を効果的に活用するなどして、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図ることが必要であり、「主体的・対話的で深い学び」の実現には「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が求められる。

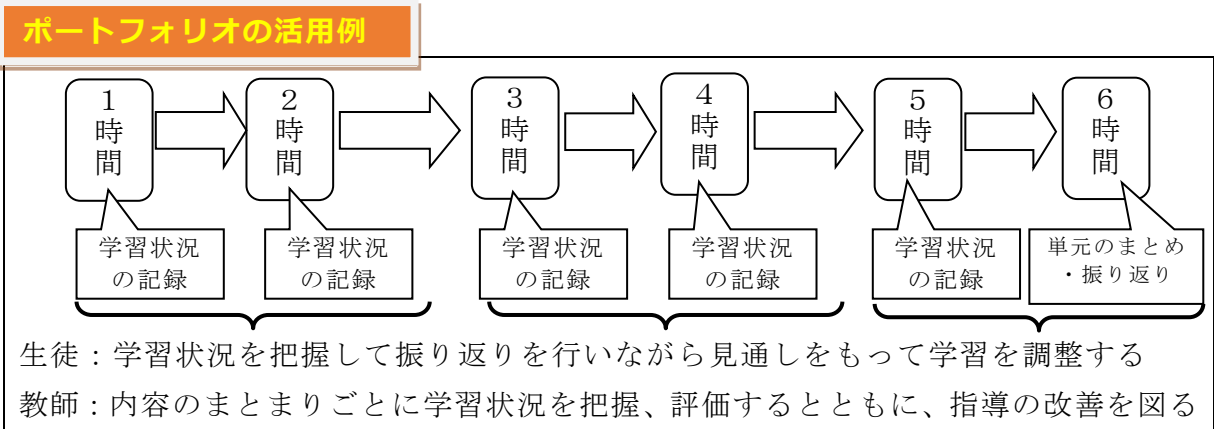
(2) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の工夫

【共通教科「家庭」における「学びに向かう力・人間性等」に関する目標】

様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

学習評価は、「生徒にどのような力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が授業改善を図るとともに、生徒自らが学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにしていく必要がある。

複数回の授業で実施する被服製作実習等における生徒の振り返りでは、毎時間のまとめで生徒が、その時間に取り組んだ内容等について記録することで、生徒自身が学習状況を把握して、振り返りを行いながら見通しをもって学習を調整することができる。また、単元を通した問いを設けて、単元の中の学習のまとめりごとに問いを振り返ることで、学習過程を通じて身に付けさせたい資質・能力を、生徒がどのように獲得したかや、生徒の変容の様子を見取ることが考えられる。



「主体的に学習に取り組む態度」の評価に当たって、「粘り強い取組」と「自らの学習の調整」の2つの側面から評価することが求められている。また、ここでの評価は、生徒の学習の調整が「適切に行われているか」を必ずしも判断するものではなく、学習

の調整が知識及び技能の習得などに結び付いていない場合には、教師が学習の進め方を適切に指導することが必要である。

2 指導と評価の計画例

「家庭基礎」において、単元全体を通して生徒が学習課題に興味・関心をもち、「主体的に課題を解決する」という視点から授業を構成していくことが重要である。生徒が主体的に学習に取り組むよう工夫し、単元において、資質・能力を着実に身に付けさせるよう工夫した授業の計画例を以下に示す。

(1) 家庭基礎「子供の生活と保育」の計画例

ア 単元の目標

- (ア) 子どもの精神的幸福度（ウェルビーイング）と心の発達について理解し、社会的背景（孤独・不安・家庭環境など）と結び付けて、情報の収集・整理ができる。
- (イ) 子どもの抱える問題を見いだして課題を設定し、解決策について評価・改善し、考察したことを、生成 AI や既存資料を活用して多面的に検討し、より現実的で倫理的な解決策を構想・表現できる。
- (ウ) 他者と協働して、よりよい社会の構築に向けて子どもの福祉に関心をもち、課題解決に向けて主体的に取り組み、子育て環境の充実向上を図るために学びを深めようとする。

イ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子どもを取り巻く社会環境、子育て支援について理解している。	子どもの健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策について評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、子供の生活と保育について、課題の解決に主体的に取り組み、子育て環境の充実向上を図るために学びを深めようとしている。

ウ 単元の指導と評価の計画（4時間）


次【時間】	学習活動等	重点	記録	備考 (評価Bの規準)
1次 【1時間目】	【導入・問題提起】 「精神的幸福度とは何か？」 ・子どもの孤独感や心の健康の課題に関する統計、事例紹介	知		・精神的幸福度や子どもの発達について基本的内容を理解している
2次 【2時間目】	【課題分析・意見交流】 ・子どもが抱える悩み（例：不安、孤独、家庭の問題）をグループで抽出 ・生成 AI で解決可能な支援を整理（例：対話支援、創作、スケジュール管理など）	思		・子ども視点・社会的視点・倫理面において、一定の論理性と具体性のある提案がなされている
3次 【3時間目】	【解決策の立案】 ・子どもの年齢・状況別に適した解決策を考察し、生成 AI を活用して提案を作成（個人またはグループ） ・倫理的な観点や周囲との協働の在り方も考慮	思 主	○	・子どもの年齢や状況に適した解決策を構想し、改善しようとしている ・他者の意見を取り入れて協働的に学習し、課題に真剣に取り組んでいる
4次 【4時間目】	【発表・振り返り】 ・各グループのアイデア発表と質疑応答・良い点や改善点を相互評価 ・振り返りで「学んだこと」「これからの家庭や社会への提案」を記述	主	○	・他者の意見を取り入れて発表を、よりよくしようとしている。

エ 学習指導案（第3次／第4次中）

1 本時の目標

- (1) 子どもの状況に応じた支援策を、生成 AI の特性を生かして創意工夫しながら提案をまとめるなど、具体的に構想・表現する。
- (2) 子どもの心の支援という社会課題に対して、自分事と捉えて積極的に関わる態度を養う。

2 本時の展開

過程	学習内容	生徒の学習活動	評価規準	指導上の留意点
導入	前時の学習を振り返り、単元を貫く問いである「精神的幸福度とは何か？」に対する自分の考えをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時のまとめ（子どもが抱える心の課題の特徴）やグループの話し合いの内容を確認する。 ・導入の問いに対して、自分なりの考えをまとめ、ICT を活用して共有する。 	<p>★ICT の活用</p> <p>テキストマイニングツールを用いて、どのような傾向がみられるのかを共有する。</p>	意見を引き出す際は「正解を求める」雰囲気を避け、自由な発言を促す。
展開	<p>対象年齢や支援場面に応じた、子どもの精神的幸福度を向上させるための支援策を提案する。</p> <p>★生徒の学習状況を見取る具体例① 【活用案構想ワークシート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象とする子どもの年齢・状況 ・子どもが抱える心の課題 ・生成 AI の活用方法 ・工夫した点、ねらい ・配慮した点（倫理・安全面）  <p>★生徒の学習状況を見取る具体例② 【振り返りワークシート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の活動で気付いたこと、印象に残ったことは？ ・次回の発表に向けて、自分たちの案をどう改善したいか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援対象（年齢層）と状況（悩み・不安）を決定する。 ・グループで考えた子どもの悩みや不安の解決策を生成 AI に入力する。 ・生成 AI が提案する解決策を踏まえて再考し、グループで話し合い、「活用案構想ワークシート」に記入する。 	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>アイデアを深めるために、生成 AI や既存の資料等を活用して、他者の意見を取り入れて協働的に学習し、自らの問題として捉えた課題の解決に向けて取り組もうとしている。（記録に残す評価）</p> <p>★「主体的に学習に取り組む態度」の評価の工夫</p> <p>「生成 AI の提案」＝「最適解」という結論にならないよう、どのような過程を通じて今回の提案に至ったのかを重視する。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>設定した対象や状況に応じた課題を見だし、解決策を構想し、合理的で現実的な提案をしている。（記録に残す評価）</p> <p>【評価Cの生徒への具体的な支援例】</p> <p>【主】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループでの話し合いへの参加を促し、生成 AI へのプロンプトの入力方法について助言する。 ・既習内容を復習できる資料を用意する ・「生成 AI の機能をまとめたカード」を使って選択肢から考えやすくする <p>【思】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの課題事例を短いケーススタディで提示し、「この子はどう感じているか」を考えさせる 	アイデアが出にくい場合は、「生成 AI の機能をまとめたカード」などを提示し、視点を広げる。
まとめ	構想したアイデアをグループでまとめ、次時の準備につなげる。	ふりかえりシートに、「今日の学び」「気付き」を記入する。		次時（発表）への意欲を高めるよう、よい取組をクラス全体で共有する。

オ 学習の進め方や学習評価の工夫

(ア) 単元を通した「主体的に学習に取り組む態度」の評価の工夫

「主体的に学習に取り組む態度」は、学習対象について考えたことを振り返って自己調整し、他者との関わりを通じて学びを深めようとする姿に着目して評価する。本授業では以下の点に注目して評価を行う。

- ・グループ活動において、他者の意見に耳を傾け、自分の意見に生かそうとしているか。
- ・アイデアを深めるために、既存の資料や生成 AI の活用事例を積極的に活用しようとしているか。
- ・振り返りの記述で、自らの思考の変化や学びの意味について振り返っているか。

※「結果」よりも「過程」を重視し、形式的や一過性の興味・関心ではなく、継続的・内省的な取組姿勢に焦点を当てる。

(イ) 生徒の学習状況を見取る「ワークシート」、「振り返りシート」の具体例 生徒の学習状況を項目ごとに見取るため【資料】を活用し、評価する。

【資料「活用案構想ワークシート」（3時間目に使用）】

年 組 番 氏名()
◎本時のテーマ 「生成AIを活用して、子どもの心を支えるための提案を考えよう」 【活用案構想ワークシート】
① 対象とする子どもの年齢・状況 (例:小学1年生、夜に1人で寝るときに不安を感じる)
② 子どもが抱える心の課題 (例:孤独感、不安、安心できる大人が近くにいぬ)
③ 生成AIが考えた解決策を踏まえ、グループで再考した解決策 (例:対話型AIによるおやすみメッセージ、ストーリーの読み聞かせ)
④ 工夫した点、ねらい (例:優しい声で話しかける/保護者に自動で報告が届く設計(した))
⑤ 配慮した点(倫理・安全面) (例:個人情報の非記録化/依存を防ぐための時間制限機能)
【振り返りシート】
◎今日の活動で気づいたこと、印象に残ったことは？
◎次回の発表に向けて、自分たちの案をどう改善したいか？
<教員コメント欄>

【評価の具体例（観点：主体的に学習に取り組む態度）】

評価	具体例
A	アイデアを深めるために、生成 AI や既存の資料等を積極的に活用するとともに、他者と積極的に交流するなどして意見を取り入れる中で、課題を自らの問題として捉え、課題の解決に向けて主体的・協働的に取り組もうとしている。
B	アイデアを深めるために、生成 AI や既存の資料等を活用し、他者の意見を取り入れて協働的に学習し、自らの問題として捉えた課題の解決に向けて取り組もうとしている。
C	アイデアを深めるために、既存の資料や生成 AI 等の他者の意見を取り入れて協働的に学習しているが、課題を自らの問題として捉え、取り組もうとする姿勢が見られない。

【評価Cの生徒への具体的な支援】

- ・グループでの話し合いへの参加を促し、生成 AI への効果的なプロンプトの入力方法について助言する。
- ・生成 AI の活用例を掲載したカードを使って選択肢から考えやすくする。
- ・子どもの課題事例を短いケーススタディで提示し、「この子はどう感じているか」を考えさせる。
- ・既習内容を復習できる資料を用意する。

※評価Cの生徒には、できていない点の指摘ではなく「どうすればよりよくなるか」を一緒に考える姿勢を重視する。

Topic

外部機関と連携した消費者教育

1 高等学校「家庭」における「消費者教育」

現行の学習指導要領においては、令和4年4月の民法改正により成年年齢が20歳から18歳に引き下げられたことを踏まえ、消費者被害の未然防止を目指し、消費者教育の充実が示された。

特に、共通教科「家庭」においては、これまでの学習内容に加えて、預貯金、民間保険、株式、債券、投資信託等の金融商品を取り扱い、資産形成の視点を踏まえることとしている。実践的な授業を実施していく上で、外部機関と連携した消費者教育計画の例を次に紹介する。

2 外部機関と連携した消費者教育の例

(1) 家庭総合「C 持続可能な消費生活・環境 (1) 生活における経済の計画」での外部機関と連携した「単元の指導と評価の計画」の例

時間	学習内容	評価規準
1	消費行動とライフスタイル ・人生設計とお金 ・家計と経済のかかわり	【主】生活における経済の計画や消費行動と意思決定、持続可能なライフスタイルと環境についての課題解決に主体的に取り組もうとしている。
2	家計管理 ・生活に必要な費用と管理 ・現代の家計の傾向	【知】家計の構造や家計と社会の関わり、消費行動における意思決定や責任ある消費の重要性について理解しているとともに、生活情報を適切に収集・整理できる。
3	【外部機関と連携】 ・金融セミナー	【思】生涯を見通した生活における経済の管理や資産形成について問題を見出して課題を設定し、解決策を構想することができる。
4	生活における経済の計画 ・リスク管理と資産形成	【知】家計の構造や家計と社会の関わり、家計管理について理解している。消費者保護の仕組みについて理解し、生活情報を適切に収集・整理できる。

【知】知識・技能 【思】思考・判断・表現 【主】主体的に学習に取り組む態度

●消費者教育及び金融教育で連携が可能な関係機関の例

機関名	取組の概要等	機関名	取組の概要
一般社団法人 北海道消費者協会	・学校訪問講座（生徒対象） ・教員サポートセミナー ・消費者教育支援セミナー（教員対象）※例年1月開催	アクサ生命保険（株）	・ライフマネジメント出前授業 ・金融リテラシー向上のための出張授業
経済産業省 北海道経済産業局	・高校生向け消費者教室 ※オンライン可	（株）北洋銀行	・ほくよう金融教室
第一生命保険（株）	・消費者教育・金融保険教育教材「ライフサイクルゲームⅢ～生涯設計のススメ～」の提供	SMBC コンシューマー ファイナンス（株）	・金融経済教育セミナー「生活設計・家計管理」「ローン・クレジット」「金融トラブル」
（株）北海道銀行	・出前授業	ろうきん （北海道労働金庫）	・金融教育出前講座

Topic

幼稚園、保育所等を訪問して子どもとのふれあいや交流などを取り入れた実践的・体験的な学習活動について

1 高等学校「家庭」における保育分野の学習の必要性

高等学校「家庭」では、人の一生を見通しながら自立して生活する能力と、異なる世代と関わり共に生きる力を育てることを重視している。そのため、子どもを生き育てることや、子どもと関わる力を身に付けるなどの乳幼児期に関する内容を、生徒に学習させることが求められている。

本トピックでは、高等学校「家庭総合」の「A 人の一生と家族・家庭及び福祉 (3) 子供との関わりと保育・福祉」の学習において、生徒が幼稚園や保育所等を訪問するなど、体験的な学習活動を取り入れた単元の指導計画を紹介する。

2 単元の指導計画（家庭総合：保育分野）

時間	学習内容	評価規準
1	幼児の発達と生活 ・ 幼児の心身の発達や生活について	【知】 幼児の心身の発達と日常生活について、理解している。
2	幼児の遊びと文化 ・ 幼児の遊びや児童文化財の役割について	【知】 幼児の遊びの種類と児童文化財が子どもに与える役割について、理解している。
3 ・ 4	オリエンテーション ・ 交流体験の内容説明 ・ 幼児との接し方や心得について ・ 幼児との交流体験授業の準備 ・ 交流体験に向けて、対象幼児に応じた「遊び」（ゲームや紙芝居、折り紙など）の準備	【知】 これまでの学習や交流体験を通して幼児と適切に関わるための基礎的な知識及び技能が身に付いている。 【主】 子どもの目線に立って、主体的に遊びを考えようとしている。
5	幼児との交流体験授業【幼稚園等の訪問】 ・ 幼児との交流を通じた幼児との関わり方について	【思】 幼児との交流を通して、どうすれば適切に関わることができるか考えることができる。 【主】 幼児と積極的に関わる上で、保育の在り方について考えようとしている。
6	振り返り学習 ・ 保育士（幼稚園教諭）の幼児への関わり方と自分たち（生徒）の子どもへの関わり方の違いについて	【思】 子どもの健やかな発達を支えるために、園児との適切な関わり方について考え、実践を評価、考察したことを理論的に表現している。
7 ・ 8	子育て支援 ・ 親の役割と保育や子どもを取り巻く社会環境、子育て支援体制について	【思】 子どもの健やかな発達を支えるための制度や資源について、問題を見出して、考察したことを表現できる。 【主】 これまでの学習について、保育者としての視点を持ち、家庭・地域の生活の充実向上を図ろうとしている。

【知】 知識・技能 【思】 思考・判断・表現 【主】 主体的に学習に取り組む態度

※外部施設での学習については事前に打合せを行い、受入先の幼児に負担の掛からないよう十分に配慮する必要がある。